

# ビッグディールの解体

秋田大学図書館・情報推進課

加藤信哉

skato@jimu.akita-u.ac.jp

# 概要

- 1 ビッグディールとは
- 2 ビッグディールに代わる手段
- 3 ビッグディールの解体

# 1 ビッグディールとは

# 定義

- 単独の図書館あるいは図書館のコンソーシアムが、出版社のオンライン・ポートフォリオ全体に対するアクセスを購入するライセンス契約
- 数十の分野にまたがる何百もの雑誌を含む
- 図書館が以前に購読していなかったコンテンツを、わずかの追加料金で利用できるようにするものである
- これは電子流通 (electronic distribution) によってのみ可能となった

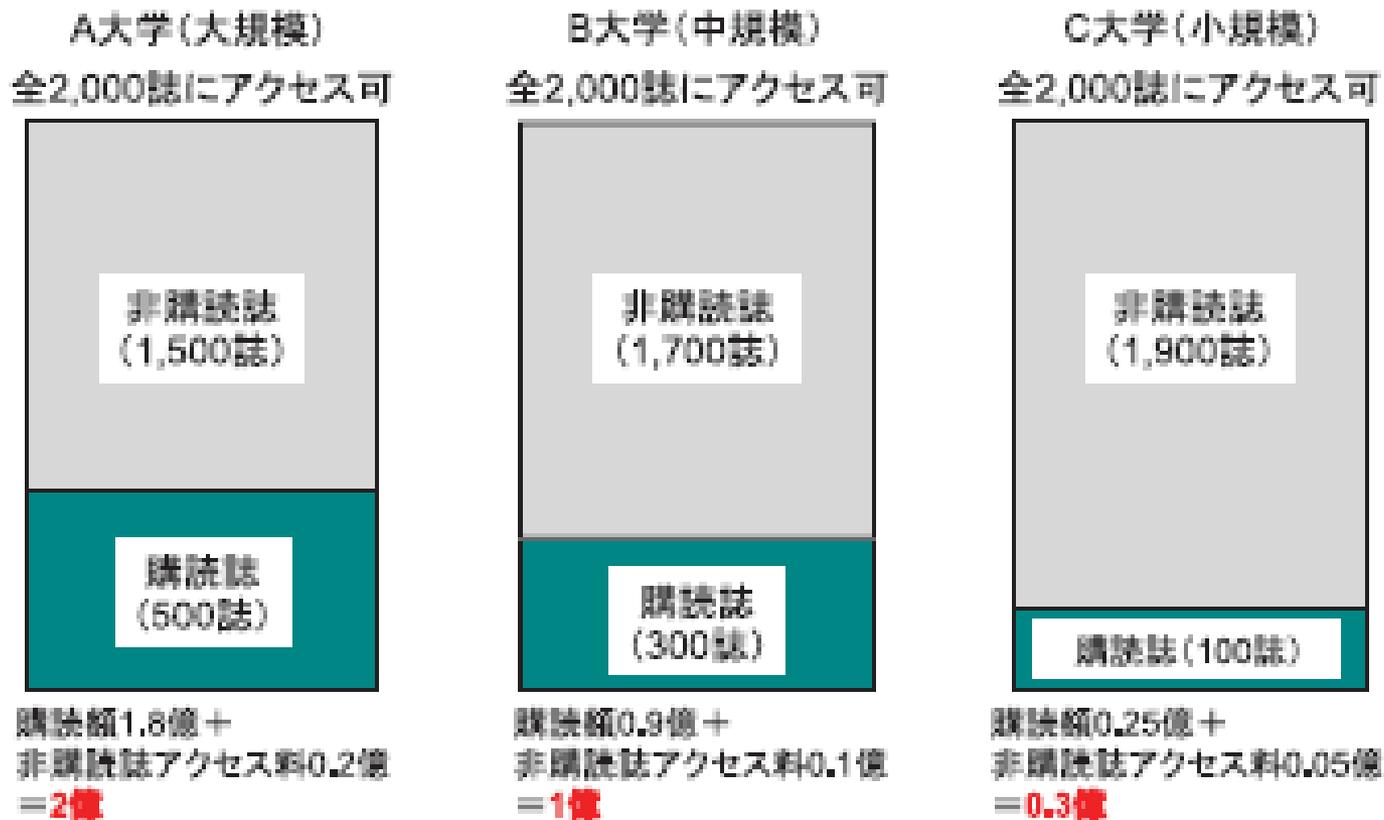
# 起源

- 少なくとも1996年に遡ることができる
- Academic Pressが、この種のパッケージ取引を初めて英国で提供
- 2001年にKenneth Frazier(ウィスコンシン大学マディソン校 図書館長)が*D-Lib Magazine*に発表した論文”The Librarian’s Dilemma: Contemplating the “Big Deal””で命名
- 日本では、1999年のElsevierのSD-21が嚆矢

# 仕組み

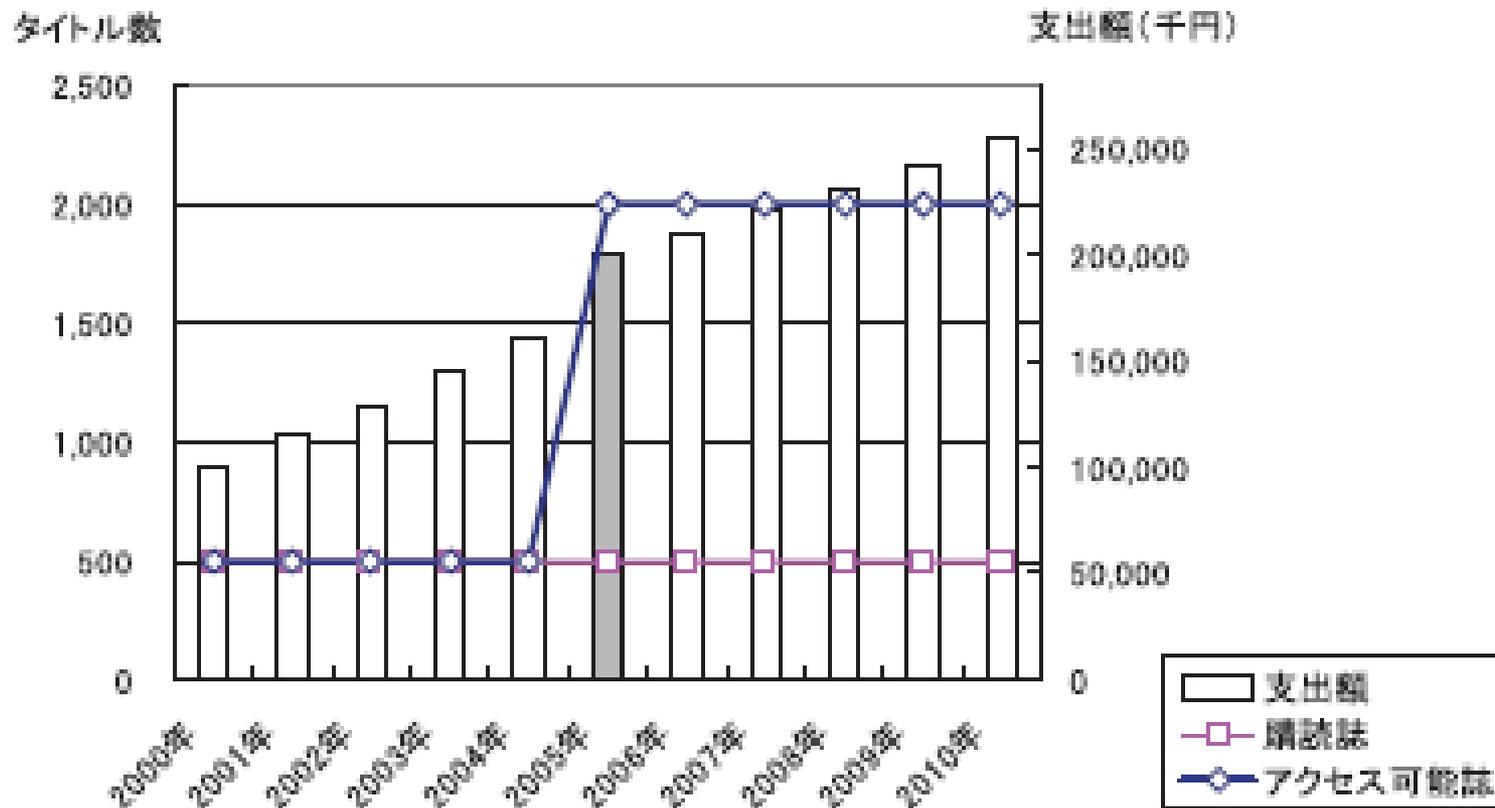
- 契約開始時点に購読していた雑誌に対する支払額を基本として、それに非購読誌にもアクセスするためのわずかなアクセス料金を上乗せした金額を支払うことによって、全タイトルアクセスの権利を獲得
- 毎年の値上りが加算

# ビッグディールの概念図



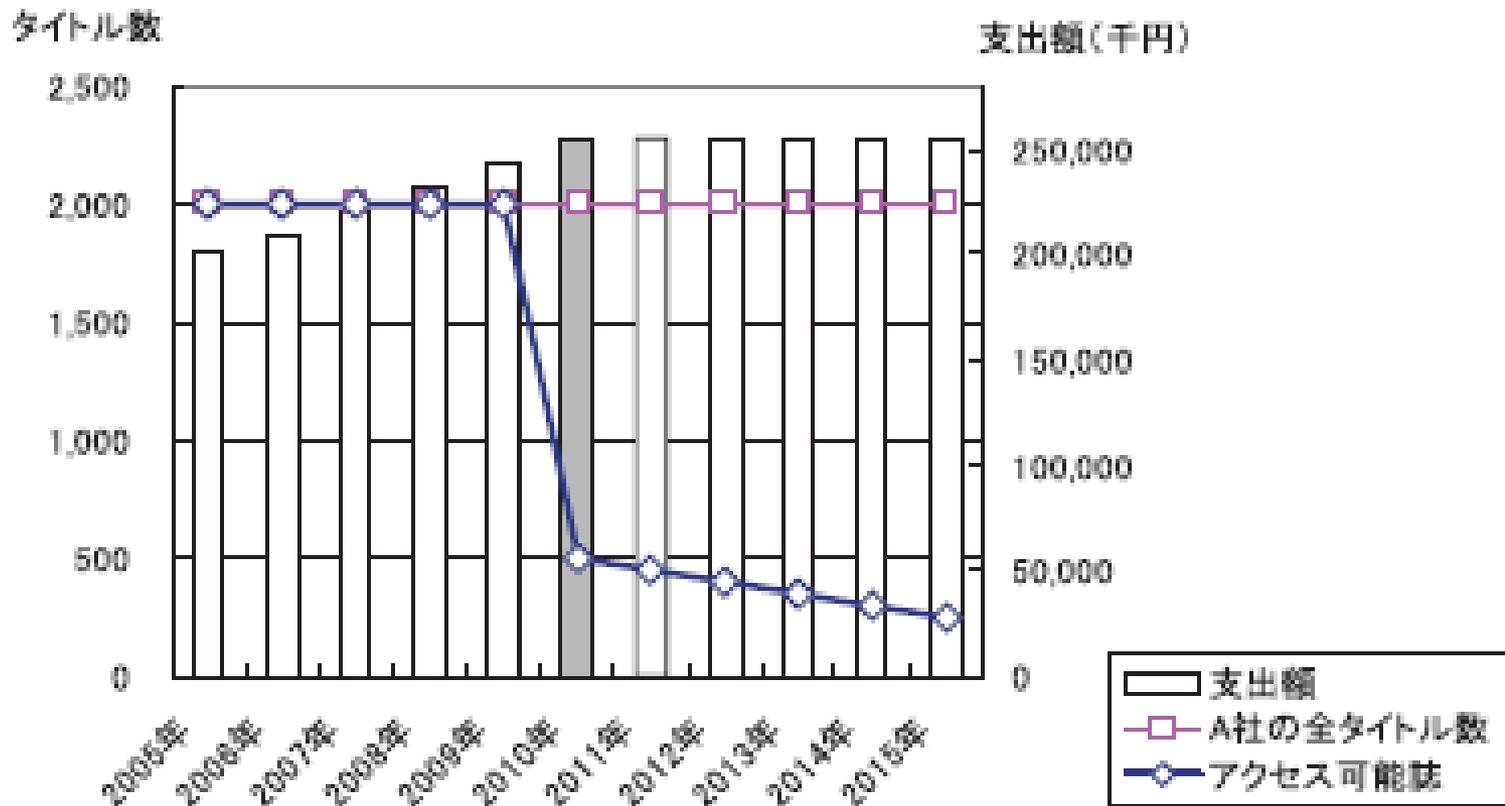
尾城孝一. ビッグディールは大学にとって最適な契約モデルか? *SPARC Japan Newsletter*. 2010, no.5, p.1-6.

# ビッグディールの継続



尾城孝一. ビッグディールは大学にとって最適な契約モデルか? *SPARC Japan Newsletter*. 2010, no.5, p.1-6.

# ビッグディールからの離脱



尾城孝一. ビッグディールは大学にとって最適な契約モデルか? SPARC Japan  
NewsLetter. 2010, no.5, p.1-6.

# 結局は

- ビッグディールは、シリアルズ・クライシスに対する実行可能なソリューションであると共に、学術コミュニケーションにおけるより大きなクライシスを提示している
  - 従来の冊子体雑誌の購読からライセンスによる電子アクセスへの移行手段
- ビッグディールは、本当に長期的なソリューションなのか、それとも単なる時間稼ぎなのか

## 2 ビッグディールに代わる手段

# ビッグディールに代わる手段

- ビッグディールそのものを解体する
- 雑誌コンテンツを利用可能にする
- ILLに依存する
- オープンアクセスに依存する

Carroll, Jeffrey D. *The Big Deal and the Future of Journal Licensing in Academic Libraries. Rethinking Collection Development and Management*. Libraries Unlimited, 2014. p.135-147.

# ビッグディールそのものを解体する

- 困難な作業+出版社からの反発
- 必要な評価作業
  - ✓ 最も利用頻度の高い雑誌を判定するための利用統計分析
  - ✓ 費用分析及び利用単価
  - ✓ 教員への照会
- 個別タイトルの購読かペイ・パー・ビュー
  - ✓ 費用が予測不能

Carroll, Jeffrey D. *The Big Deal and the Future of Journal Licensing in Academic Libraries. Rethinking Collection Development and Management*. Libraries Unlimited, 2014. p.135-147.

# 雑誌コンテンツを利用可能にする

- アグリゲータが提供するフルテキストデータベースを提供
  - 例) Ebsco Academic Search Complete
- 問題点
  - ✓ 出版社が突然コンテンツを引き上げる
  - ✓ 契約を中止した瞬間にすべてのコンテンツが利用できなくなる

Carroll, Jeffrey D. *The Big Deal and the Future of Journal Licensing in Academic Libraries. Rethinking Collection Development and Management.* Libraries Unlimited, 2014. p.135-147.

# ILLに依存する

- 無料ではない
- 担当者による労働集約的作業
- 依頼単価は平均17.50ドル\*

\*Jackson, Mary E. *Assessing ILL/DD Services: New Cost-Effective Alternatives*. Washington, DC: Association of Research Libraries, 2004.

Carroll, Jeffrey D. The Big Deal and the Future of Journal Licensing in Academic Libraries. *Rethinking Collection Development and Management*. Libraries Unlimited, 2014. p.135-147.

# オープンアクセスに依存する

- 前提：一部の学術雑誌のほとんどのコンテンツへのアクセスが必要ではない
- 公的資金による研究成果の義務化がふつうになりつつある
- ほとんどの場合、新しいコンテンツに対するエンバーゴ（利用禁止期間）がある

# 3 ビッグディールの解体

## 3-1 日本では

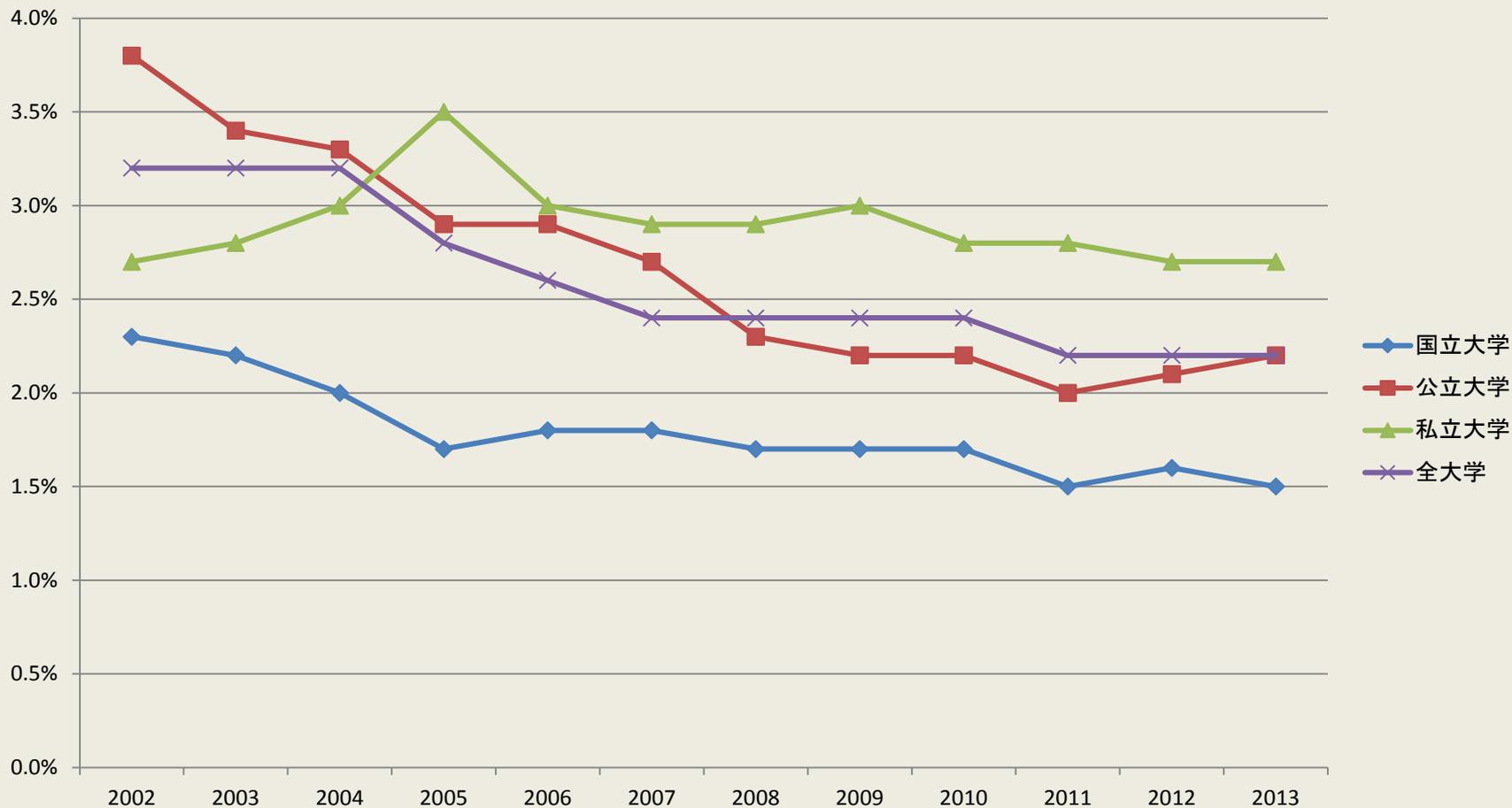
# 背景

- 大学(図書館)の経費削減
- 2012年秋から急速に進行した為替相場における円安
- 消費税の増税(5%→8%→10%)  

- 海外電子製品に対する課税(0%→8%→10%)  

- 継続するパッケージの値上がり(約5%)

# 大学総経費に占める図書館経費の割合の推移:2002年度～2013年度



# 解体とその後のモデル

- 実施(例示)  
**東邦大学**(2008年), 電気通信大学, 兵庫医科大学  
(2013年4月), 名古屋大学, 中央大学, **明治大学**(2014  
年4月), 大阪大学, 岡山大学, (2015年4月)...
- すべてがエルゼビア社のパッケージ
- 後継モデルはCore + Peripheral (Core Collection Plus)  
コア・コレクション以外のタイトルへのアクセスを, 割  
引価格(例:@1,100円)のペイ・パー・ビューで提供し  
ている機関もある
- コアタイトルの選択基準のひとつは利用単価(cost per use)

## 3-2 アメリカ合衆国では

# 背景

- 2008年のリーマンショック
- 州財政の悪化 → 公立大学の予算削減
- 大学図書館予算の横這い・減少
- 継続するパッケージの値上がり

# 事例(州立大学)

大学	北米研究図書館協会 (ARL)加盟	コレクション 予算	契約ビッグディール		コンソーシアム
			種類	予算	
南イリノイ大学カーボン デール校	○	520万ドル (FY2014)	Elsevier Springer* Wiley*		*GWLA
オレゴン大学	○	755万ドル (FY2014)	Elsevier* Wiley	42万ドル (FY2009) 52万ドル (FY2009)	*Orbis Cascade Alliance
ミシシッピ州立大学			Springer* Wiley*	35万ドル (FY2007) 40万ドル (FY2010)	*ESIG
アイオワ州立大学	○	900万ドル (FY2009)	Elsevier Springer Wiley	265万ドル (FY2009)	

GWLA: Great Western Library Alliance ESIG: (NSF EPSCoR Science Information Group)

FY: Fiscal Year

# 南イリノイ大学カーボンデール校(1)

- 図書館資料費に対する圧迫
- パッケージの解体

出版社	解体年	コンソーシアム	利用開始年	アクセス不能タイトル数(非購読タイトル)	中止前年の利用(ダウンロード件数)
Springer	2009	GWLA	2005	1,100	10,000
Wiley	2010	GWLA	2001	597	11,254
Elsevier	2010	南イリノイ大学エドワーズビル校と合同	2003	242	19,452

Nabe, Jonathan; Fowler, David C. Leaving the “Big Deal” ... Five Years Later. *Serials Review*, 2015, vol.69, no.1., p.20-28.

# 南イリノイ大学カーボンデール校(2)

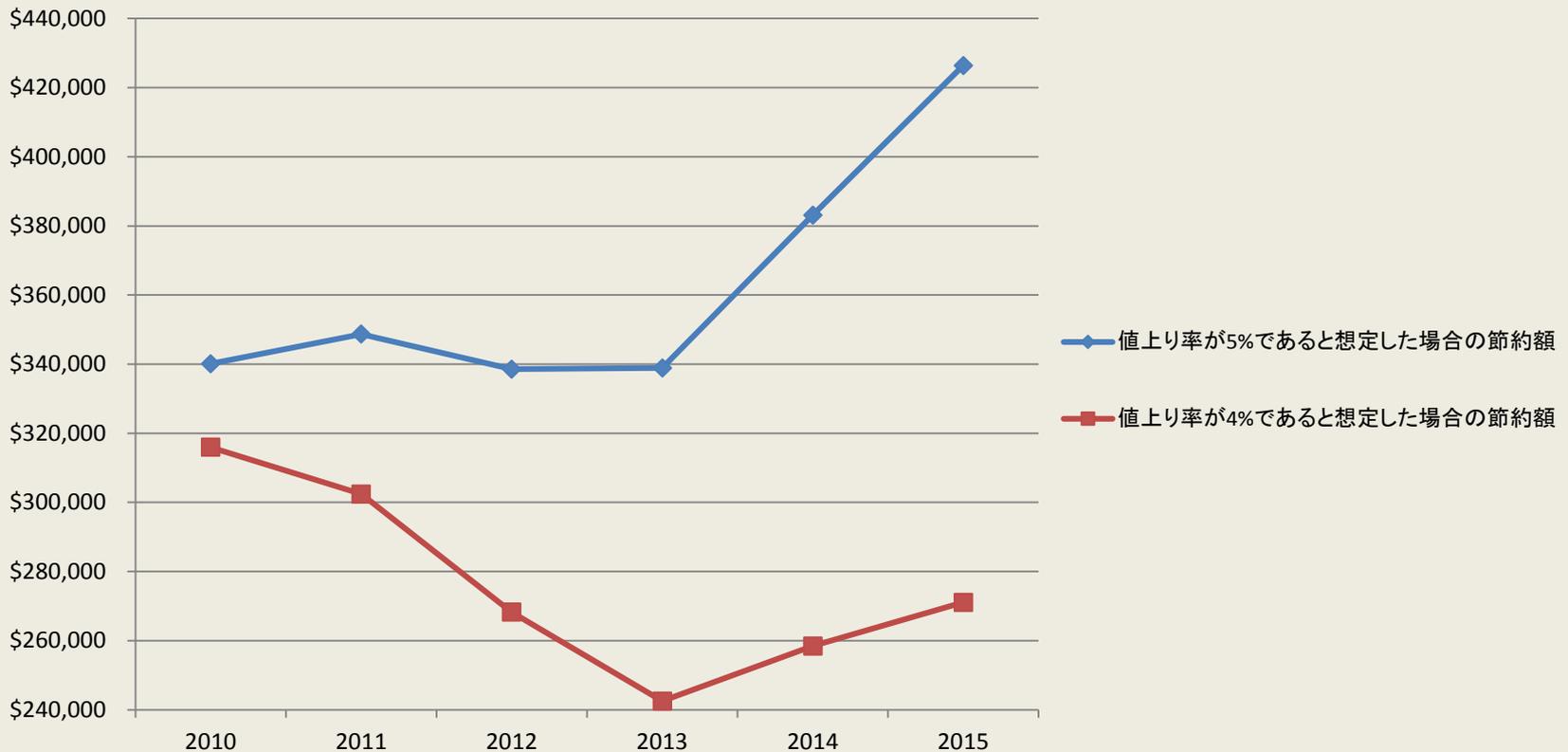
- Wiley解体後のILLの利用実績: 2010年～2014年

事項	タイトル数	割合	ILL依頼件数	参考: 解体前年のダウンロード件数
ILL依頼のあった非購読誌のタイトル	597	54%	1,118 (以前の10%)	11,254
5年間で年1回ILL依頼のあったタイトル	[191]	32%		
5年間でILL依頼のなかったタイトル	283	47%	0	2,361

Nabe, Jonathan; Fowler, David C. Leaving the “Big Deal” ... Five Years Later. *Serials Review*, 2015, vol.69, no.1., p.20-28.

# 南イリノイ大学カーボンデール校(3)

## 想定される節約額の推移: 2010年~2015年



Nabe, Jonathan; Fowler, David C. Leaving the “Big Deal” ... Five Years Later. *Serials Review*, 2015, vol.69, no.1., p.20-28.

# 南イリノイ大学カーボンデール校(4)

- まとめ

- ✓「ビッグディール」解体による財政面，コレクション及び図書館の自立性に対するインパクトは明確
- ✓解体から5年が過ぎたが，正しい判断であったと確信

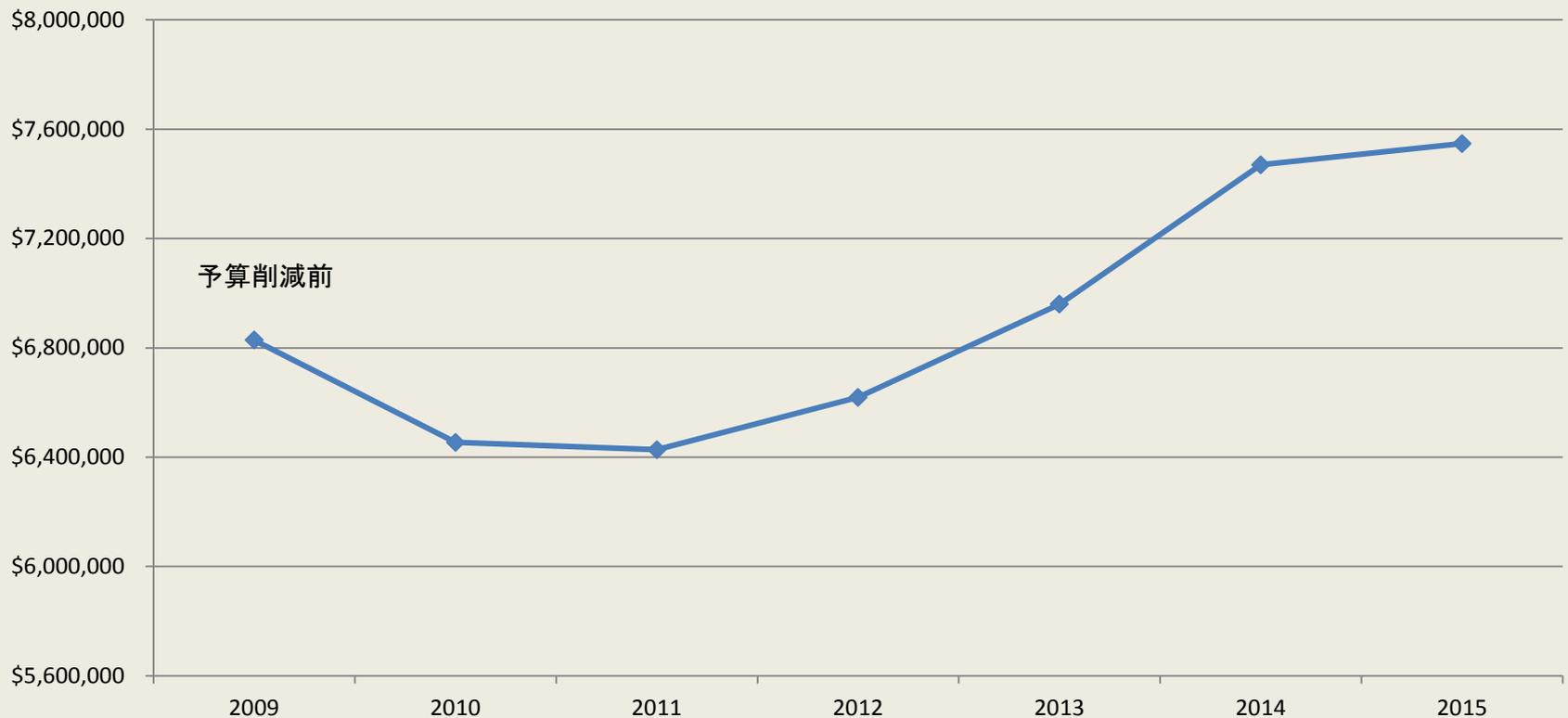
# オレゴン大学(1)

- 予算削減の圧迫  
2009年 当初20%削減要求
- ビッグディールの見直し
  - ✓ Elsevier
    - ▶ Orbis Cascade Allianceから脱退, オレゴン州立大学とポートランド州立大学との合同契約に切替 (575タイトル→162タイトル)  
(約28%)
    - ▶ 約43万ドルを節約(約10%)
  - ✓ Wiley
    - ▶ ビッグディールを解体, 個別購読に切替 (1000タイトル→297タイトル)  
(約30%)
    - ▶ 約17万ドルを節約(約32%)

Nabe, Jonathan; Fowler, David C. Leaving the “Big Deal”... Five Years Later. *Serials Review*, 2015, vol.69, no.1., p.20-28.

# オレゴン大学(2)

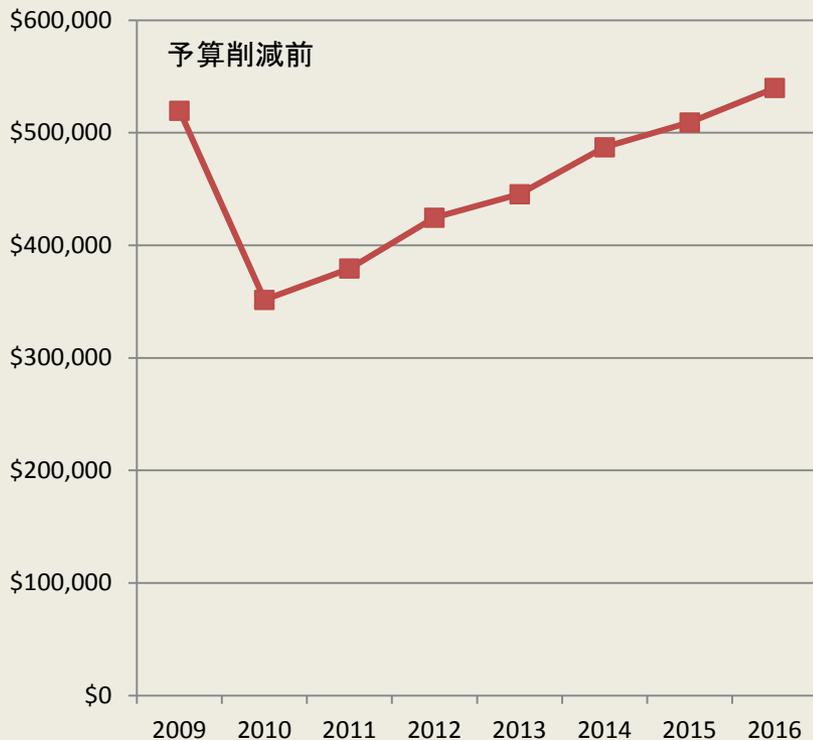
## 資料費の推移: 2009年~2015年



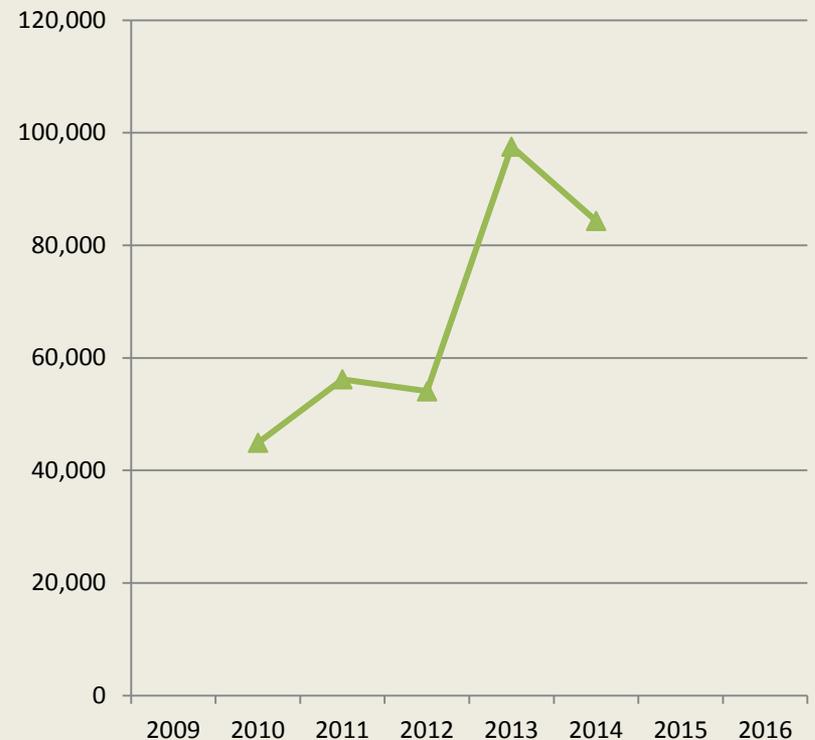
Nabe, Jonathan; Fowler, David C. Leaving the “Big Deal” ... Five Years Later. *Serials Review*, 2015, vol.69, no.1., p.20-28.

# オレゴン大学(3): Wiley

## 支払額の推移: 2009年～2016年



## 利用の推移: 2009年～2016年



Nabe, Jonathan; Fowler, David C. Leaving the “Big Deal” ... Five Years Later. *Serials Review*, 2015, vol.69, no.1., p.20-28.

# オレゴン大学(4) : Elsevier

## 支払額の推移: 2009年～2015年



## 利用件数の推移: 2009年～2015年



Nabe, Jonathan; Fowler, David C. Leaving the “Big Deal” ... Five Years Later. *Serials Review*, 2015, vol.69, no.1., p.20-28.

# オレゴン大学(5)

- まとめ
  - ✓「ビッグディール」の刈込の最終成果を歓迎
  - ✓大学の研究活動におびただしい影響を与えることなく、何年にもわたってコレクション予算が安定
  - ✓予算状況が厳しくなれば、この路線を踏襲

# ミシシッピ州立大学(1)

- 2012年度予算を急に50万ドル削減
- 対象ビッグディール

出版社	解体年	コンソーシアム	利用開始年	購読費用
Wiley-Blackwell	2012	ESIG 7館	2007	40万ドル
Springer	2012	ESIG31館	2001	35万ドル

Jones, Mary Ann; Marshall, Derek. "Big Deal" Deconstruction. *Serials Librarian*, 2013, vol.64, p.137-140.

# ミシシッピ州立大学(2)

- 利用分析と経費

2008年～2011年のダウンロード件数に基づき、利用頻度の高い個別購入に切り替える

出版社	個別購読:ダウンロード件数 50件以上		個別購読:ダウンロード件数 100件以上	
	タイトル数	購読費用	タイトル数	購読費用
Wiley- Blackwell	230	ビッグディー ルより高い	120	ビッグディー ルより18万ド ル安い
Springer	190	ビッグディー ルより高い	75	ビッグディー ルより高い

Jones, Mary Ann; Marshall, Derek. "Big Deal" Deconstruction. *Serials Librarian*, 2013, vol.64, p.137-140.

# ミシシッピ州立大学(3)

- 結果
  - ✓ 2つのビッグディールを解体
  - ✓ 200タイトルを個別購読(アクセス喪失: 2,800タイトル)
  - ✓ 40万ドルを節約(目標額の80%)
- 評価(反省)
  - ✓ 教員等を巻き込んでいなかった→反発  
→ 「私たちの失敗に学べ」

# アイオワ州立大学(1)

- 課題と評価
  - ✓ 雑誌コレクション管理における柔軟性の欠如と財源
  - ✓ SpringerとWileyのビッグディールの3年にわたる体系的評価
- 解体と結果
  - ✓ Springer(2011年末)  
1,903タイトル → 305タイトル(16%)
  - ✓ Wiley(2012年末)  
1,282タイトル → 473タイトル(37%)

# アイオワ州立大学(2)

- 数値指標
  - ✓ 利用単値 (cost-per-use) / 図書館相互貸借費用
  - ✓ 解体の閾値: 平均図書館相互貸借 (ILL) 費用  
Springer: 17.50ドル, Wiley: 13.94ドル
- 影響と代替手段
  - ✓ ビッグディールの解体後, 利用できなくなったタイトルの提供にILLを利用 → ILLの増加は見られなかった
  - ✓ CONTUガイドラインの「Rule of 5」を超えたILL依頼があったタイトル → 個別タイトルの再講読や新規購読

# アイオワ州立大学(3)

- 成果

- ✓ コレクション予算の節約

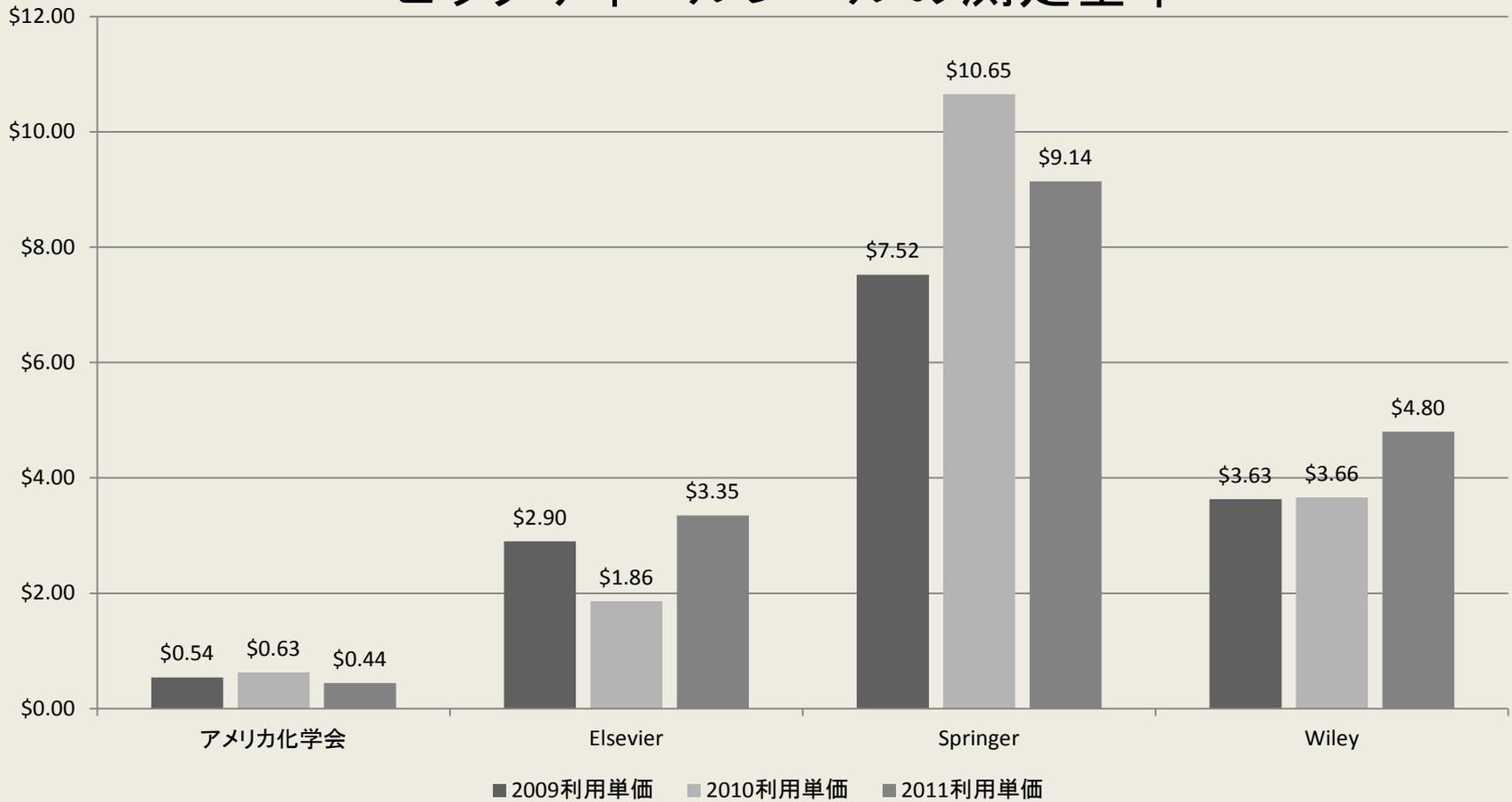
- 例) Springer 約30万ドル

- ✓ 本プロジェクトの最大の効果

- 雑誌コレクション構築の意思決定を、利用者のニーズを反映したものに回復

# アイオワ州立大学(4)

## ビッグディールレベルの測定基準



Pedersen, A. et al. The big Deal, Interlibrary Loan, and Building the User-Centered Journal Collection. *Serials Review*, 2014, vol.40, no.4, p.242-250.

# アイオワ州立大学(5)

## SpringerについてのILLの損益分岐点

タイトル	コアタイトルの状態	2011価格	2008-2010の平均利用回数	2011予想利用単価
Economic Botany	コア	\$205.00	398.3	\$0.51
Molecular Biology Reports	パッケージ(非コア)	\$1,341.00	146.7	\$9.14
Qualitative Sociology	コア	\$1,120.00	75.0	\$14.93
<b>図書館間相互貸借</b>				<b>\$17.50</b>
Oxidation of Metals	コア	\$1,823.00	88.7	\$20.56
Cognitive Processing	パッケージ(非コア)	\$597.00	21.7	\$27.55
Bulletin of Experimental Biology and Medicine	コア	\$6,213.00	22.7	\$274.10
Russian Mathematics	コア	\$3,077.00	1.0	\$3,077.00
Plasma Physics Reports	パッケージ(かつコア)	\$5,315.00	1.0	\$5,315.00

Pedersen, A. et al. The big Deal, Interlibrary Loan, and Building the User-Centered Journal Collection. *Serials Review*, 2014, vol.40, no.4, p.242-250.

# アイオワ州立大学(6)

解体後にCONTUの制限回数に達したSpringerのタイトル

タイトル	以前の状況	ISU著作権使用料
<i>Argumentation Information</i>	コア	\$48.00
<i>Technology and Tourism</i>	パッケージ	\$16.50
<i>International Journal of Mental Health and Addiction</i>	新規	\$199.75
<i>Maternal and Child Health Journal</i>	パッケージ	\$159.80
<i>Methods in Molecular Biology</i>	新規	\$49.95
<i>Oxidation of Metals</i>	コア	\$199.75
<i>Research on Chemical Intermediates</i>	コア	\$119.85
計		\$793.60

Pedersen, A. et al. The big Deal, Interlibrary Loan, and Building the User-Centered Journal Collection. *Serials Review*, 2014, vol.40, no.4, p.242-250.

# アイオワ州立大学(7)

## ビッグディール解体後の比較

コアタイトル		
維持		168(36%)
中止		298(64%)
計		466
パッケージタイトル		
維持		137(10%)
中止		1,300(90%)
計		1,437
完全パッケージ		
維持		305(16%)
中止		1,598(84%)
計		1,903

Pedersen, A. et al. The big Deal, Interlibrary Loan, and Building the User-Centered Journal Collection. *Serials Review*, 2014, vol.40, no.4, p.242-250.

# 最後に

大学図書館におけるビッグディールのような雑誌のライセンス契約の手段はどうなるだろうか



短中期的に見れば、大学図書館と出版社が複数のアクセスモデルを実験するので、多様でかつ複雑なものになると思われる



長い目で見れば、どのような結果になるかは誰にもわからない